

## USER GUIDE

### 1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。  
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。  
Character Series VT BASS は、豊富なノブコントロールを持ち、使いやすく、独自の 100% アナログ SansAmp 技術を採用した、多機能ペダルです。パワーアンプを駆動するプリアンプとしても、ギターアンプ付きのストンプボックスとしても、さらに、直接録音機材に接続することも可能です。ノブを回すだけで、さまざまな時代のアンプスタイルサウンドを再現可能です。Character コントロールは、トーンの調節範囲全体を変更。全てのコントロールとスピーカーシミュレーションは、それぞれのアンプスタイルに合わせて設計されています。カスタマイズされたアンプスタイルを持つキャラクターシリーズペダルはお値段以上の価値を提供します。

### 2 接続

#### アンプとの接続：

SansAmp の出力を直接パワーアンプ INPUT または「エフェクトリターン」に接続します。これによりアンプのプリアンプをスルーして本機でコントロールが可能です。

#### 注意：

本体のボリュームが 0 にしてから接続してください。  
アンプをオンにし、それからゆっくりと本体の音量を上げます。全体的に大きすぎる場合は、1/4" Out Boost スイッチがオフ（上）になっていることを確認してから、それに応じてプリセットを編集します。音量が不足している場合は、1/4" Out Boost スイッチを押し込んで 10dB を追加します。

SansAmp をアンプのフロント入力（メインの入力端子）に接続することもできますが、アンプの入力が過負荷にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲイン（出力レベルが本機の ON/OFF 時でほぼ同じ状態）に近づけてください。

### 2 接続

#### フロント入力を使用するときにアンプを設定するためのヒント：

1. 低ゲインチャンネル入りに接続します。
2. Bright スイッチをオフにします。
3. プレゼンスコントロール（該当する場合）を 12 時以下に設定します。
4. トーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

#### ダイレクトにレコーディングする：

ミキサー/レコーダーの入りに直接接続して、SansAmp のオンボードサウンドを使用することができます。ミキサー/レコーダーのようなフルレンジシステムでは幅広い周波数を録音/再生が可能です。SansAmp の EQ 設定を調節してベストなサウンドを見つけてください。

### 3 入出力

#### 1/4" フォン入力：

1/4" フォン 1MΩ、インストゥルメントレベル。本端子はバッテリー使用時のスイッチ・ジャックとなりますので、プラグが刺さっている状態では常にバッテリーが消耗します。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

**注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入口に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。**

#### 1/4" フォン出力：

アンバランスド 1kΩ の低インピーダンス出力により、バイパス時も、シグナルを損なうことなく駆動できます。

### 4 コントロール

#### LEVEL：

1/4" フォン出力と XLR 出力の両方の出力レベルを調節します。

#### LOW, MID, HIGH：

LOW, MID, HIGH の EQ セクションは、スタジオミキシングボードのように、完全なイコライジングコントロールが可能です。本機の EQ セクションはカットするだけのパッシブトーンコントロールとは異なり、12 時位置を ±0 としてカット、ブーストします。

#### DRIVE：

入力感度、および全体のゲイン量を調節します。真空管アンプのオーバードライブを再現します。

#### CHARACTER：

各スタイルのアンプに関連付けられているトーンの調節範囲全体を変更します。周波数応答を修正することに加え、アタックとドライブ特性に影響を与えます。そのため、Character コントロールを調節した後、ゲインとトーンの設定を調節する必要がある場合があります。

#### BLEND：

真空管シミュレーション回路と音源の信号（ドライ信号）のブレンドを決定します。通常、最大（100% SansAmp）に設定します。ただし、ピエゾピックアップを装備したアコースティック楽器などでの使用の際には、アコースティックな響きを残すためにドライ信号を混ぜることでバランスをとってください。Blend が最小の際、真空管シミュレーション回路はバイパスされますが LOW, MID, HIGH の各コントロールはアクティブのままです。

## 5 BITE

Bite はプレゼンスブーストとサブソニックフィルター (20Hz 以下の超低音の雑音をカット) をアクティブにします。歪んだ設定になっているときはサウンドを引き締め、クリーン設定のときははっきりとしたサウンドになります。

## 6 スピーカーシミュレーション

キャビネットを複数のマイクでマイキングした様なスムーズなサウンドを再現します。この機能で使用するキャビネットに悪影響を及ぼすことはありません。スピーカーシミュレーションは EQ コントロールと連携して、全体的なサウンドをカスタマイズします。ただし、必要に応じて、スピーカースイッチ (🔊) を解除することで、スピーカーシミュレーションを無効にすることができます。多くのアンプには高音が強調されたプリアンプセクションがあり、このようなアンプのフロントインプットを使用する際、より自然なプリアンプサウンドが得られます。逆に、高音を強調しないパワーアンプやアンプのエフェクトセンドに入力する場合は、その不足を補うためにペダルのハイコントロールを増やす必要がある場合があります。

※本機にアンプのスピーカーアウト信号を入力することは出来ません。誤った接続を行うと本機やアンプ等周辺機器を破損する恐れがあります。

## 7 入出力とスイッチ

### 電源を入れる順番について：

本機の電源を最初にオンにし、最後にオフにします。機器を接続または切断するときは、スピーカーを損傷する可能性のある「ポップ」を防ぐために、プラグの抜き差しを行う前に、必ずミキシングボードをミュートにするかアンプの音量を下げてください。

**注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。**

### INPUT：

1/4" 1M $\Omega$ 、インストゥルメントレ本端子はバッテリー使用時のスイッチ・ジャックとなりますので、プラグが刺さっている状態では常にバッテリーが消耗します。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

### PARALLEL OUTPUT：

1/4" アンバランスバッファード出力。入力された信号は、EQ やエフェクトがかかるとなく出力されます。

### XLR 出力 (Di アウト)：

バランスド 600 $\Omega$  出力。EQ やエフェクトのかかった、またはバイパスされた信号をミキサーやレコーダーに送信します。

### XLR OUT PAD スイッチ：

さまざまな機器に出力を合わせるための -20dB パッド。アップポジション (▲) では、出力は 0dB、ダウンポジション (▼) では、出力は -20dB です。

## 7 入出力とスイッチ

### 1/4" フォン出力：

アンバランスド 1K $\Omega$  出力。

EQ やエフェクトのかかった、バイパスされた信号をベースアンプまたはパワーアンプに送ります。

### 1/4" Output Level スイッチ：

さまざまな機器に出力を合わせるための +10dB パッド。アップポジション (▲) では、出力は -10dB、ダウンポジション (▼) では、出力は 0dB です。

### フットスイッチ：

SansAmp チューブアンプエミュレーション回路をオン / オフします。オンにすると、LED が点灯し、音色とゲインは各種コントロール設定の影響を受けます。XLR アウトプットと 1/4" フォン出力より効果のかかった状態の信号を送ります。

オフにすると、LED が消灯します。本機はアクティブなクリーン DI として機能し、音源の信号は、各種コントロール設定の影響を受けません。

## 8 ファンタム電源

現在、多くのミキサーは XLR 入力にファンタム電源機能を搭載しています。本機は XLR 出力 (DI アウト) を使用した際、ファンタム電源供給を受けて作動させることができます。ファンタム電源供給時本機は電源アダプターを使用することなく動作ができます。電源は最低 24V ファンタム電源ですが、ヘッドルームを最適化し、LED を点灯させるには、48V ファンタム電源を推奨します。

### PHANTOM & GROUND CONNECT スイッチ：

このスイッチを ON にする (▲) とグラウンドが接続され、XLR 出力からファンタム電源の供給を受けることができます。また、このスイッチを OFF にする (▼) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

### ミキサーにのみ入力する場合：

ベースを本機に接続して XLR Output をミキサーに接続している場合 (そして他のアース機器が接続されていない場合)、アースを接続するにはスイッチを押し込みファンタム電源を ON にする必要があります。

## 9 ファンタム電源

### ミキサーとベースアンプに入力する場合：

XLR を経由してミキサーに接続、1/4" フォン出力を使ってベースアンプ（独自の AC アース付き）に接続する場合は、スイッチを「グラウンドリフト」モード用の位置Ⅲ（ ）に設定する必要があります。スイッチが ON/OFF いずれの位置でも、ノイズやバズ音が出た場合は、接続している AC コンセントに問題がある可能性があります。

※ビンテージ機器を使用する際は、ノイズ対策をしっかりと行ってください。ビンテージ機器によるノイズの影響は全ての機材に影響する場合があります。

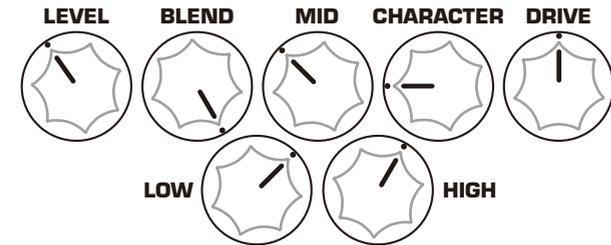
※ファンタム電源を供給する場合でも、9V 電池を接続したままにしてください。ファンタム電源のオン/オフの際に発生するノイズ対策に役立ちます。

## 10 使用上のヒント

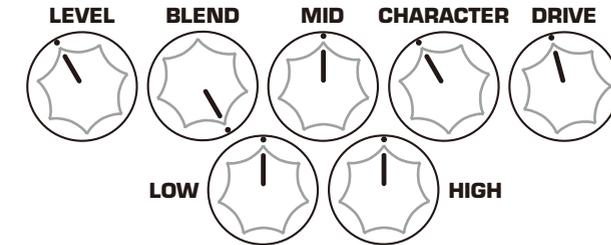
- ◆ 本機のコントロールは異常に緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の効果を求める場合にも、すべてを最大に設定する必要はありません。  
最適な設定を見つけるには、12時のトーンコントロールから始めて、必要に応じてカットまたはブーストします。設定はアンプや環境によって大きく異なるため、その都度ベストなサウンドを探してください。
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。  
その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、  
本機の前：コンプレッサー、エンベロープフィルター、ワウ等  
本機の後：コーラス、ディストーション（その他）、エコー、リバーブ、ボリュームペダル等をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。
- ◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。
- ◆ バッテリーの電圧が低下し始めると（約6ボルト）、LEDは著しく暗くなります。

## 11 サンプルセッティング

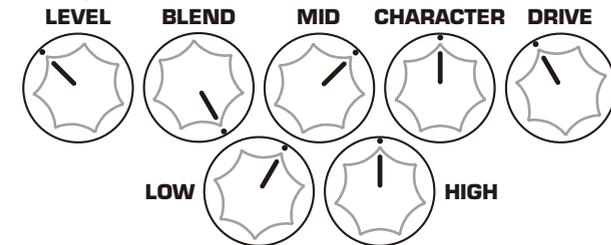
### SVT® -Style



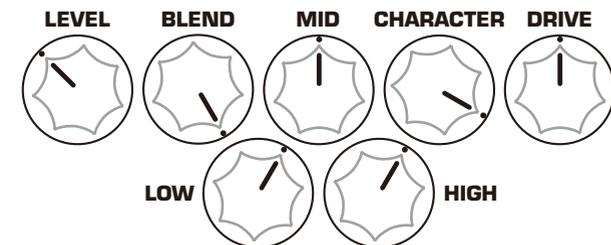
### FAT TUBE



### FLIP TOP-Style

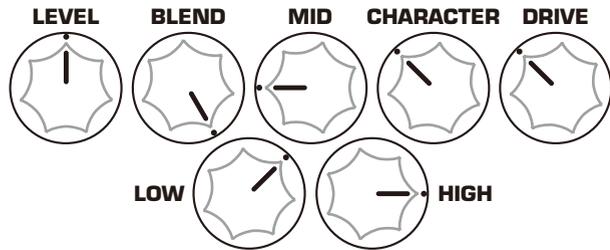


### RAGE

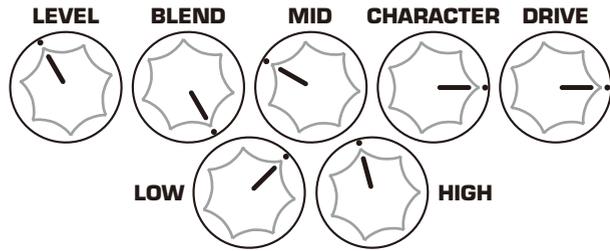


# 11 サンプルセッティング

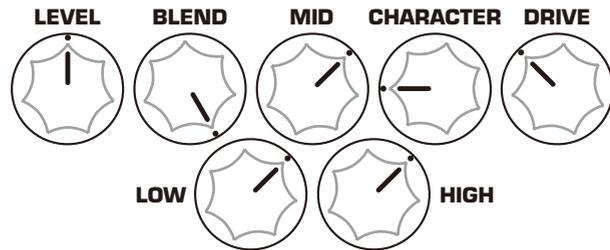
## THUMPY FUNK



## FUZZED OUT



## WARM COMPRESSION



## YES-style

